

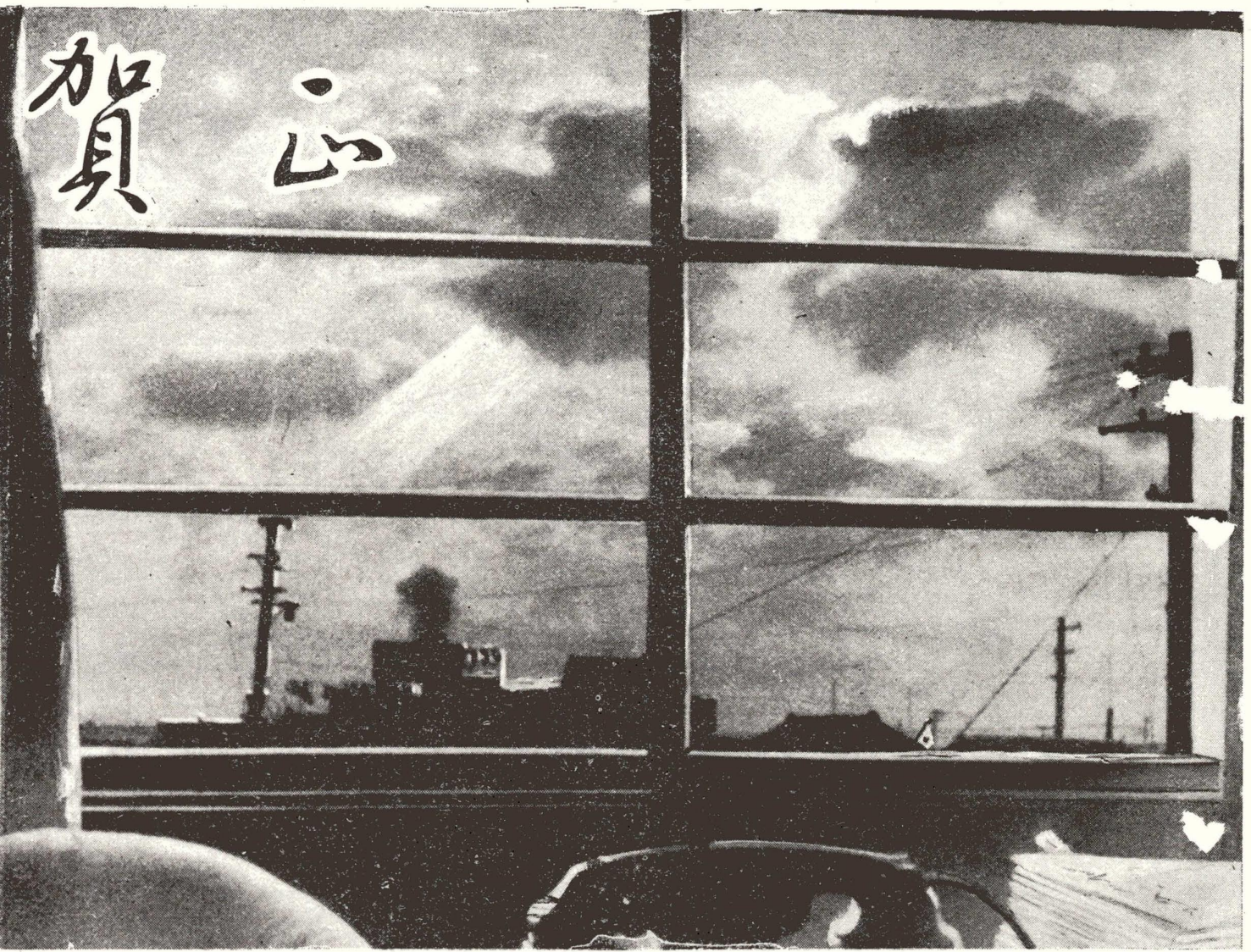
世知ら政の区

昭和29年1月1日

足立区役所

第74號

賀 心



新年を迎えて 足立区長 大山雅二

区民の皆様

新年お目出度う存じます。一陽来福の春、私は先づ区民各位の御幸福を心から念願致しますとともに、それを目標として今年も努力致す覚悟を新に致しております。
扱て昨二十八年を省みますと、色々大きなニュースがありました。皇太子殿下御外遊の如く平和と日本建設のため大いに貢献遊ばされた、結構なこともありました。これに反して、九州、近畿を襲った大水害と、天候不調による全国的の不作は、獨立復興途上にある日本としては誠に大きな障碍と相成つたことは事実であります。天候の不順は人為の如何とも致しかねる処であります。しかし大水害を小水害に致すことは、人の努力によつて可能であります。低濕地帯と言われている吾が足立区におきましても水害の防除施設と対策に万全を期したいと存じます。

第二に足立区の発展は区内中小企業の堅実な発展に俟たねばなりません。商工業並びに農業の振興に充分素材をもつ当区は産業経済中心地区とし将来あるを信じております。これが対策の一つとして、足立区産業会館の建設が近く着工の運びと相成ります。次に以上とも関係のある、区内道路及び橋梁の整備で、環状第七号道路並びに飯塚橋梁工事の促進とともに足立区永年計画として目下進行中の地区計画を樹立し都市計画の基礎といたしたいと存じます。第四には教育の刷新で、教育委員会の立案を尊重し、二部教授の撤廃と老朽校舎の改築に最善の努力をいたしたいと存じます。又社会民生方面としては児童会館の建設、遺家族、留守家族の援護のこともあります。挙げてまいりますといくらかも解決すべき問題もありませんが、大略以上を考えておる次第であります。

新年を迎えて 足立区議会議長 宮入五郎

区民の皆様、新年お芽出康うございます

「どうぞ今年も明るい、楽しい、歳でありますように」
顧りみますと、昨年、六十年或は七十年振りと言ふような稀有の天候に支配されて、香ばしくない事柄が続き、吾国が暗い表情に覆われるという事が数々ありました。
又区政に就いても多事多難の年でありまして、大いに努力致しましたけれど、未だ力及ばず未解決の事件もありましたが、是れらについては、吾々議員に於いても過去を顧み職責に行動に、大いに反省を加えんと共に改善、促進の實が揚るよう努力すべきであると信じます。

本年は午年であり、古来景気の跳上る年と云われて居ります。当区に於いても前記未解決の問題と取組み、早期解決を期すと共に更に区行政一般に対する研究と好意ある区理事者への監督提携とによつて明るい区政の進展に寄与せんとするものであります。

一年々向上の一途 明るい足立区建設への道

一年の計をたてるべき元旦にあたり、昭和二十八年を振り返り、区政の運営状況を載せて、区民各位の御批判を仰ぐとするのは、時期を得ぬ方法である、考えられるかも知れない。が、すべて区の行政が、議会の議決によつて執行されることから見れば、元旦にある一年の企画が、前年の長をとり、短をすてた世論となつて議会に反映し、そこから区民各位が望んでいる足立区政が執行されるならば、従来から叫ばれてきた「明るい住み良い足立区」の建設は、急ピッチではかどることになるだろう。本号はその意味において編集したのだが、更に足立区に住んで区の面積を知らず、区の大まかな財政状況も良くわからないまま、ことあることに不便を感じながら生活している人々も少なくない。と考へて、敢て昭和二十八年に限らず、一部においては数年前からの統計表により区政の進展状況を示すと共に、区の概要に触れてみた。

Ⅱ 区 の 面積 Ⅱ

総面積 三、四七方型(五三

八五九平方方(人口密度(一平方方)五、七五三人)

東西 二里二五町(一〇五八二方)

南北 二里一〇町(八、九七六方)

東端—長門町 西端—新田上町 南端—千住曙町 北端—舎人町

区的面積は二十三区中第二位で農地面積は第一位である。

Ⅱ 区 の 人口・世帯 Ⅱ

昭二八、一二、一現在

世帯数 七〇、一二二

人口 三一、四一〇

男 一五八、七四〇

女 一五二、六七〇

(一世帯平均人員四、四四人)

なお別図のように本区の人口は戦後上昇の一途をたどり、区の躍進振りを示しており、現在二十三区中第七位となっている。

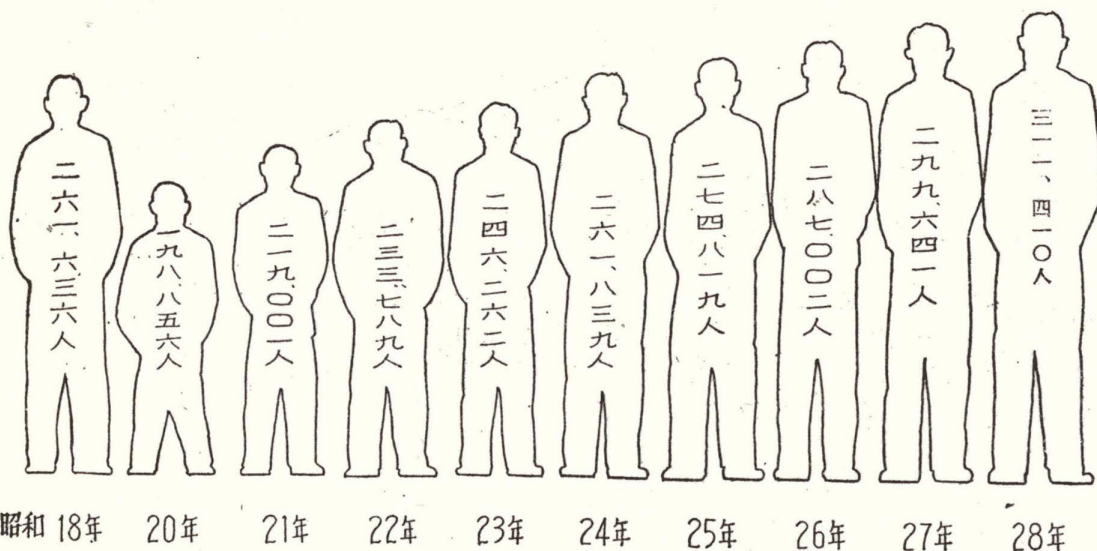
Ⅱ 人口移動 Ⅱ

昭和二十八年における区の人口移動は次の通りである。

転入 三六、五六八人

転出 二九、五一三人

年次別人口推移



出生 四、九八四人
死亡 一、七四二人
以上の通り、自然増三、二四二人、移動増七、〇五五人となつている。
なお一日平均の出生は一、三七人、死亡は三、八八人

政 政

予算は最小の経費を以て最大の効果を挙げるといふ経済原則に従つて編成され執行されているが、これらの詳細については、「財政事情の作成と公表に関する条例」に基いて毎年五月と十一月の二回、その実情を公表し、区民各位の御協力を願つていたので、重複を避けるために省略した。次に別表のように終戦後の本区財政事情を年度毎に比較すると、年々漸増の一途をたどつて来たが、これは経済の変動、物価の昂騰にのみ原因するのではなく、教育、民生、土木、経済等の各行政部門の充て発展、即ち区政の進展を

年度別	区経済歳出決算額	都経済執行委任決算額	合計
昭和年三度	二四五、九九五	三、四九五、八八七	三、七四一、八八二
同 三年度	四三、九三六、八四六	九六、七七七、四六三	一、四〇六、六一六、三〇八
同 三年度	一三四、八八〇、一〇五	二〇三、二九〇、五八	三三六、九九一、六八三
同 三年度	一八八、八三六、五九九	三五四、七九七、九五〇	五四三、六〇六、五四九
同 三年度	三七二、三七九、二七四	四五二、四八八、八四五	八三三、五二八、一三九
同 三年度	三四四、九三三、〇六九	五〇九、五五五、六九三	八五四、四八七、七六一
同 三年度	四五三、七五八、四六五	五三三、八三六、八五五	九八七、五九七、三二〇
同 三年度	六二七、〇四八、八二九	四九八、〇〇〇、八九九	一一、二六六、〇四八、七二八



物語るものであると言えるだろう。
昭和二十八年年度は区経済頭初予算で一般会計三五九、七八五、四九五円、質屋事業会計三〇、二二九、八二九円を計上し、その後一般会計に六三制整備費、道路清掃、公共便所等に対する所要経費二二七、〇三三、五〇五円を追加計上し、また都経済についても教育費、労働費、住宅建設費等の執行委任を受け、昭和二十八年十二月末現在では表の金額になつたものである。

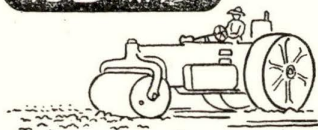
昨年の主なる土木事業

道路補修



3,410万円
延長 657米
面積 3,229平方米

路面補修



1,664万円
延長 28,624米
面積 129,655平方米

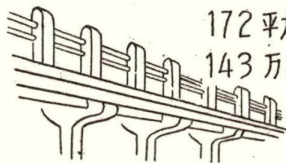
側溝改修

242万円
延長 5,600米



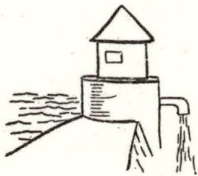
橋梁

補修 架橋
42米
172平方米
143万円



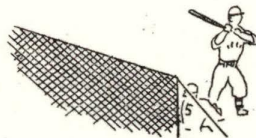
排水場新設

5カ所
4,668万円
排水場ポンプ類修理
6カ所
288万円



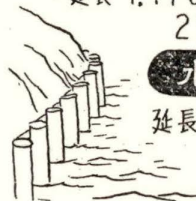
荒川放水路運動場整地

面積 29,606平方米
593万円



護岸復旧

延長 1,176米
295万円

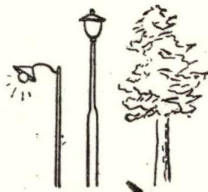


水路改修

延長 2,466米
87万円

街路照明灯修理

23灯
延長 842米
13万円



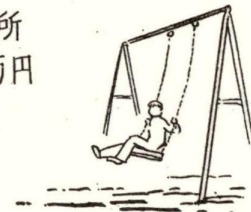
公園整備

3カ所
22万円



児童遊園新設

3カ所
59万円



産業

堤南における商業、堤北の農業、江北方面の工業と、大よそ三つの地区にわけて分類される本区の産業は地域の広大と相俟つて、それぞれ都内有数の地位を占めており、荒川放水路堤塘敷の開発、千住花火の開催に加えて前述の土木事業の促進による交通網の整備等から、将来益々発達するものと期待されている。

農業

耕地面積 二、四九九町
田 一、五四五町
畑 九四四町
農家人口 一九、二三六八
男 九、二六八八
女 九、九六八八
戸数 二、八二八戸
区内人口比は六、二%となつている。

主なる農作物、作付面積、収穫高

米(水稲)	作付面積 一四、七九六反
	収穫高 二九、四四四石
小麦	作付面積 二一七反
	収穫高 二六〇石
裸麦	作付面積 四八七反
	収穫高 五八七石
甘藷	作付面積 三四反
	収穫高 四四石
馬鈴薯	作付面積 三〇〇反
	収穫高 九〇、〇〇〇貫
その他	作付面積 一三、二六八反
	収穫高 八、一八六、〇〇〇貫

以上の通りで米の供出量は七六八石と都内の四割を占めその他の農産物は足立市場に出荷されて荒川、葛飾の隣接区をはじめ城北地区の台所を賄う重要な穀倉となつている。



校舎の増築に拍車

図書館利用者も激増

教育

全園の大きな関心を集めて開設された夜間中学の設置や、精神薄弱児童の教育のために特殊学級を設けるなど数年來から地域の特殊性を考慮した、区の教育行政は大きな成果を挙げつつ運営されてきたが、昨年の年末における本号で、教育委員会の一周年を記念し、これらの詳細についてお知らせしたのでなるべく重複を避けながら、昭和二十八年の区教育行政にふれてみよう。

学校建設状況

- 中学校
 - 第九中学校 二教室増築
 - 第五〃 四〃〃
 - 第十六〃 一四〃新築
 - 第十五〃 四〃増築
 - 第八〃 六〃〃
 - 第三〃 講堂新築
- 小学校
 - 千寿小学校 六教室増改築
 - 東瀬江〃 一〇〃〃
 - 千寿五分校 四〃増築
 - 梅二小学校 四〃〃
 - 梅一分校 六〃〃
 - 本木分校 八〃新築

学事関係

- 千四小学校 講堂新築
- 計 六八教室
- 二講堂
- 養護学園
 - 第九期生 四十九人
 - 第十期生 六十七人
- 臨海学園
 - 中学校 教員 七三人
 - 生徒 九三一人
 - 小学校 教員 一八九人
 - 生徒 二、三九〇人
- 結核検診
 - 小学校 三七、〇六九人
 - 〃反応 一、七一人
 - BCG接種 一、七一人
 - 中学校



社会教育関係

- 区民映画会
 - 一四回開催 参加者二三、〇〇〇名
- 巡回映画会
 - 二三三回開催
 - 児童 七九、七五〇名
 - 一般 五七、三五〇名
 - 計 一三七、五〇〇名
- 移動図書館利用状況
 - 出動回数 五一回
 - 利用図書数 一三、六〇九冊
 - 利用者数
 - 一般 七、一八〇人
 - 児童 六、四二九人

区立図書館利用状況

- 計 一三、六〇九人
- 千住図書館
 - 利用者数 四七、二三四人
 - 一般 四〇、三二〇人
 - 児童 六、九一四人
- 貸出図書数 五五、七二八冊
- 梅島図書館
 - 利用者数 四〇、〇八二人
 - 一般 三三、六八八人
 - 児童 六、三九四人
- 貸出図書数 五一、五五一冊

議会

昭和二十八年中に開かれた区議会本会議、委員会及び審議可決された案件は次の通りである。

- 本会議 七回
- 委員会 六五回
- 審議可決された案件
 - 条例に関するもの 一九件
 - 区有財産に関するもの 六件
 - 学校設置又は廢止に関するもの 六件
 - 予算に関するもの 七件
 - 審附受領に関するもの 三件
 - その他 一件
 - 計 五二件

民政

民生保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法等による一連の民生事業は、都内では福祉事務所によつて行われているので、区役所のいわゆる足立区の民生行政は間接的な区民の福利厚生を主眼としたものにおかれています。が、福祉事務所と絶えず密接な連絡をとり、生活困窮者やその子弟に対し、側面的援助をなしていることも勿論のことである。

民生事業関係

- 本木診療所利用状況
 - 一般有料 五、二五五人
 - 生活保護法による者 六、〇一五人
 - 健康保険法による者 一、四一三人
- 結核予防法による者 一三九人
- 計 一二、八二二人
- 保育事業関係
 - 本区内の保育児童は公私合わせて八一三名あり、適格幼児二四、〇〇〇人として約三四%に対し保育を実施している訳になる。
 - 簡易保育所(主として日傭労務者の子弟) 二か所 六五人

産業

(その二)

昭和二十八年末における本区商工業の状況は次の通りである。

- 商業
 - 商店数 八、六〇四店
 - 併業者数 一二、七三四人
- 工業
 - 工場数 一、八八二件
 - 従業者数 二七、八三三人



- 保育園(主として生活困窮者の子弟)
 - 三か所 二七八人
 - 農繁期保育所(春秋二回開設する)
 - 四か所 八〇〇人
- 公益質屋利用状況
 - 千住公益質屋
 - 貸付金額 六、九七、七〇円
 - 貸付口数 五、七〇件
 - 併済金額 六、九七、五〇円
 - 併済口数 五、六六件
 - 西新井公益質屋
 - 貸付金額 五、六九、〇〇円
 - 貸付口数 四、八五件
 - 併済金額 五、九七、六〇円
 - 併済口数 四、四二件